

地域と気象

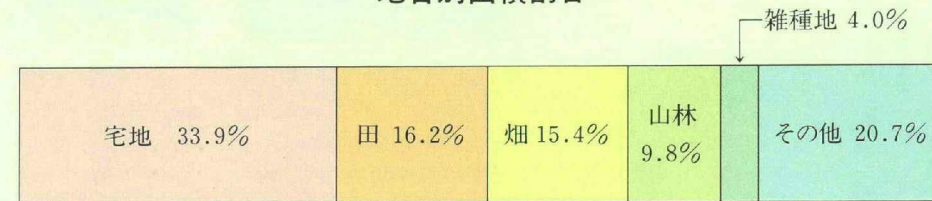
本市は九州の中央、東経130度42分、北緯32度48分に位置し、地勢は西北部から北部にかけて、金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を発する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。

気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが、有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく、特に、夏には「肥後の夕風」といわれる蒸し暑い日が続きます。

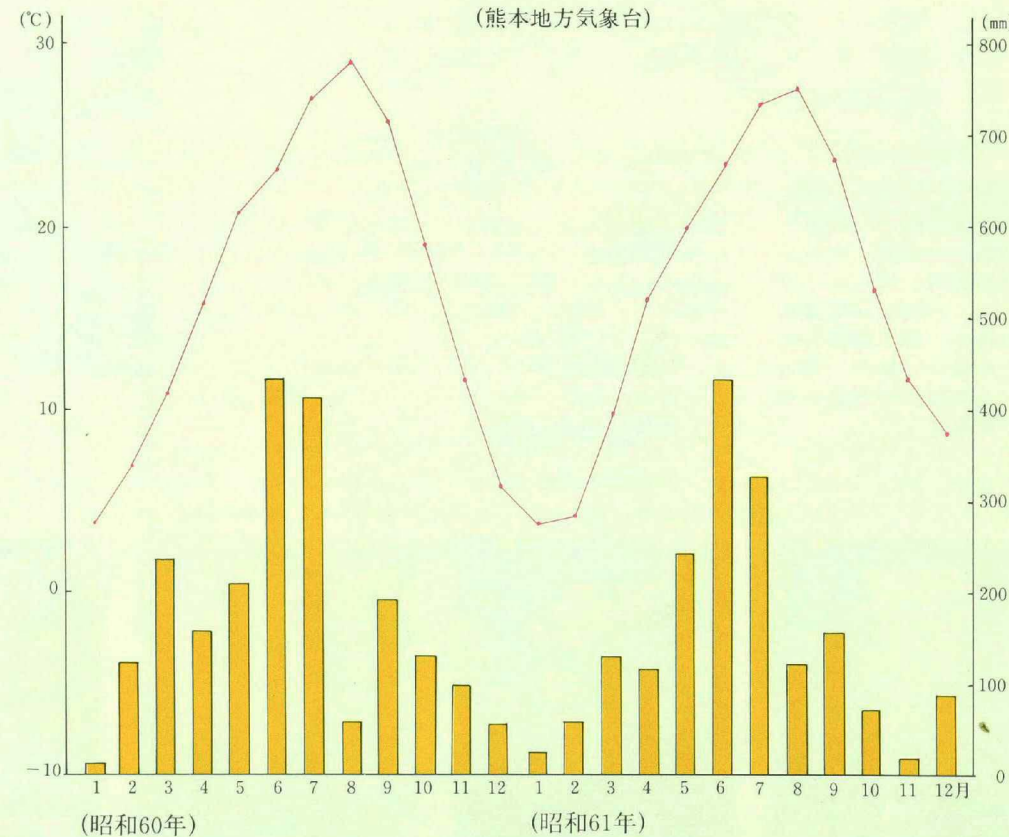
気温は年平均16℃前後で、昭和61年の例では最高気温が7月の35.7℃、最低気温が1月の-4.6℃となっており、年間降水量は約1,800mmで、4月～9月の半年間に7割以上の降水量があります。また、風向は春から夏にかけて西南西の風が多く、秋から冬にかけては西北西に変わり、風速は1年を通して2m前後のゆるやかな風が吹いています。

位置 (熊本市役所)
 東経 130°42'38"
 北緯 32°48'00"
 東西 21 km
 南北 14 km
 面積 171.73 km²

地目別面積割合



気温と降水量 (月平均)
(熊本地方気象台)



人口

明治22年市制施行時に42,725人であった本市の人口は、昭和52年50万人を越え、62年10月1日現在565,685人、198,516世帯になっています。人口増加は年率1.0～1.1%で推移し、人口密度は3,294人/km²、1世帯あたりの人員は2.85人です。

熊本県の総人口の30.7%を占める本市の人口順位は、全国で16番目、九州では福岡市、北九州市に次いで3番目になっています。

この10年間の国勢調査による人口増加を比較してみると、常住人口(夜間人口)は、増加数、伸び率ともに鈍化しています。通勤、通学者の流入する昼間人口は、増加数が55年に一時上向いたものの、伸び率は常住人口と同じ傾向を示しています。昼夜間人口の比率は、50年108.0、55年108.7、60年108.2となっています。

また、人口の地域分布を60年国勢調査でみると、およそ東部に23万人、北部に11万人、中央部に8万1千人、南部に7万人、西部に6万4千人が住んでいます。この中で、中央部だけは人口の減少が続いています。人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続けています。

60年国勢調査によると、年齢3区分別の割合は、0～14歳の年少人口が21.5%、15～64歳の生産年齢人口が68.7%、65歳以上の老年人口が9.9%となっています。老年人口は、この5年間に1.1ポイント上昇しており、高齢化社会の到来を示唆しています。

産業3部門別就業人口の割合は、第1次産業3.3%、第2次産業19.5%、第3次産業76.8%となっており、第1次産業、第2次産業の割合が低

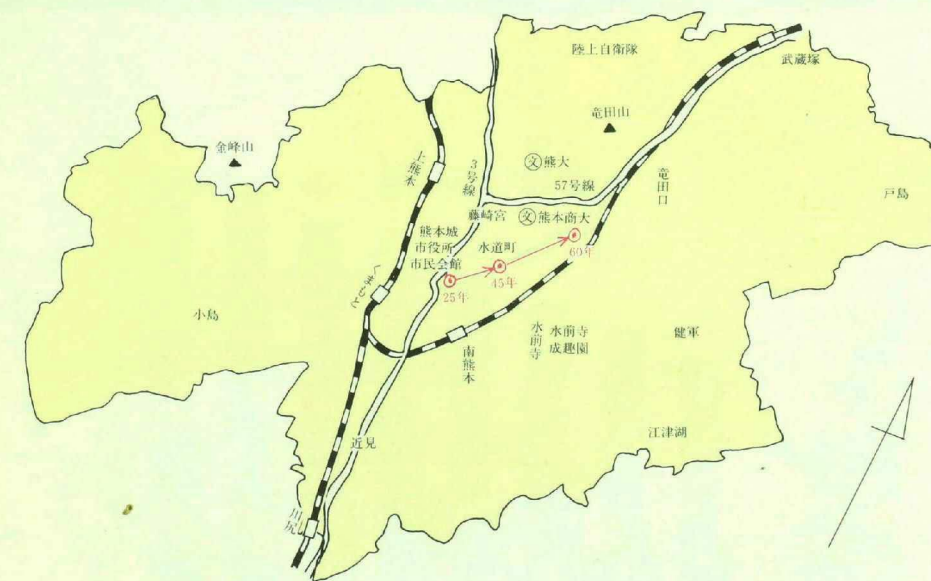
下し、第3次産業の割合が上昇しています。第3次産業では、卸・小売業、サービス業、金融・保険業の割合が上昇しています。

都市圏人口

本市と周辺10町を加えた熊本都市圏人口は、昭和62年10月1日現在718,188人、239,607世帯で熊本県人口の38.9%を占めています。人口増加率は、熊本都市圏が1.0%、10町が1.1%で推移しています。

熊本都市圏人口を30年国勢調査人口からみると、熊本市は4万人前後で増加してきていますが、10町の人口は45年まで減少し、その後増加に転じ、55年国調には前回より20%以上も増加しましたが、これを反映して、55年の都市圏人口は6万人以上の増加になっています。現在も都市圏人口は年平均7千人～8千人で増加を続けています。

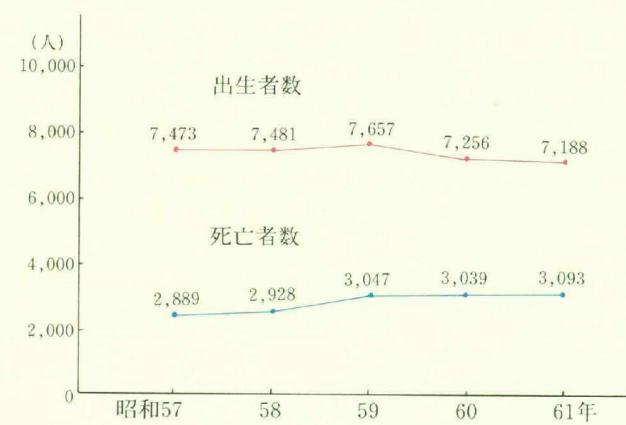
熊本市の人口重心推移



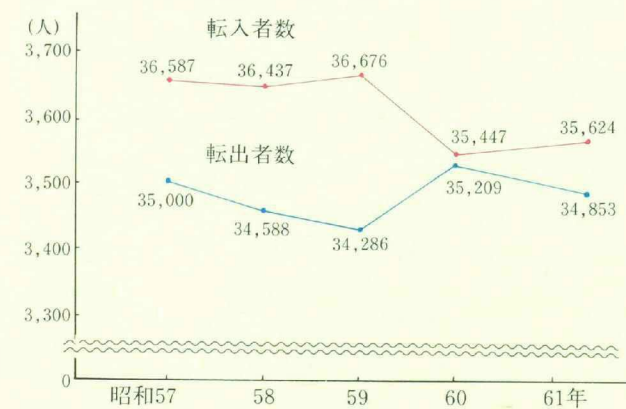
熊本都市圏の人口推移 (月別)



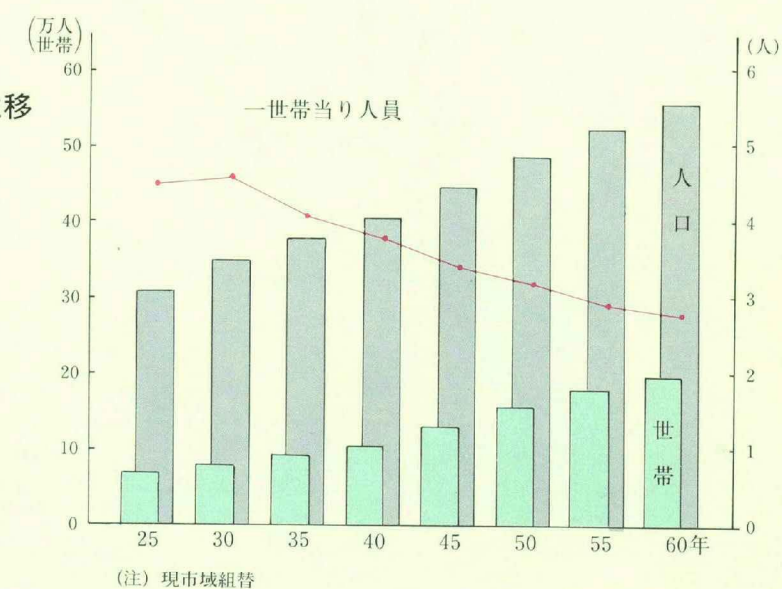
自然動態



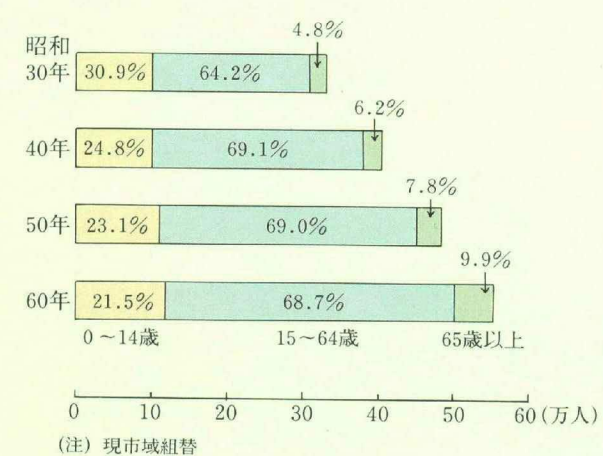
社会動態



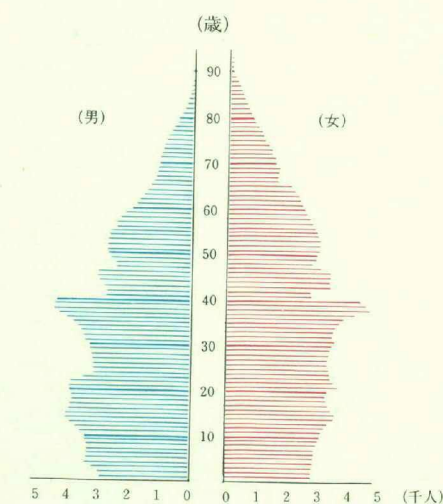
人口・世帯数の推移 (国勢調査)



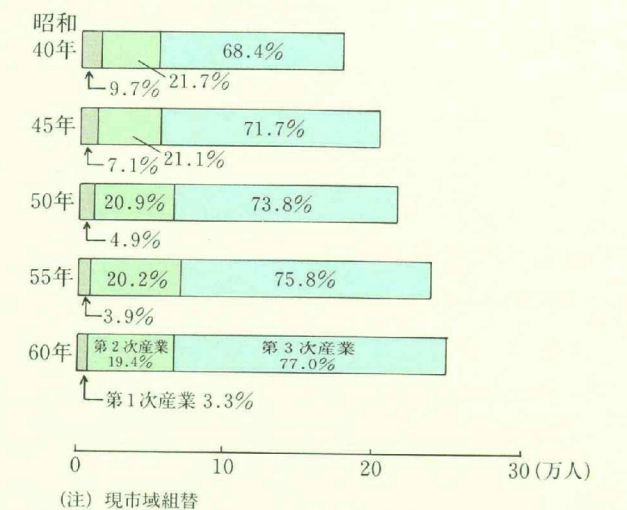
人口の年齢 (3区分) 構成推移 (国勢調査)



年齢別人口構成 (60年国勢調査)



就業者数の推移 (国勢調査)



活気

に満ちたくもとへ。

地域間競争の時代。

熊本市は、
地場産業・観光・農林水産業の振興など、
他地域に負けない力強い地域経済の
活性化をすすめます。

地域経済の活性化

産業

Human City くもと
KUMAMOTO

本市は、地方中核都市としての特性を背景に、第3次産業に大きく傾斜した、消費型都市として発展してきました。特に、卸売・小売業およびサービス業のウェイトが高く、商品販売額は全国でも上位です。

第2次産業では、都市型工業が主流を占めていますが、世界屈指のIC工場、全国的に有名な医薬品製造工場なども立地しています。製造品出荷額などでは電気機器、食料品、飲料、出版・印刷、化学などの順になっています。

また、第1次産業では、都市近郊農業として豊富な基幹作物を有する農業は、県下第2位の生産規模にあり、水産業は有明海のノリ、魚介類、内水面養殖漁業などがあります。

近年、九州自動車道の整備、熊本港の建設、熊本空港の国際化など、基幹交通運輸ネットワークの拡充をはじめ、産・学・住の調和のとれた新しい地域開発をめざすテクノポリス構想の進展、ニューメディア・コミュニティ構想、テレトピア構想のモデル地域指定など、流通の拠点性や高度情報化社会への対応を一層高めるなど、経済的諸条件を備えてきております。

人口56万余人、九州第3位の人口を擁する本市は、来るべき21世紀に向けて、今後、新たな生活産業の育成、流通・情報などの拠点性の強化、地場リーディング産業の振興を図り、ヒューマンシティを目指した地域経済の活性化を進めていきます。

中小企業

本市の中小企業は、事業所数の90%以上を占めており、市の経済活動の大部分を担っています。このために中小企業振興に、次のような諸施策を実施しています。

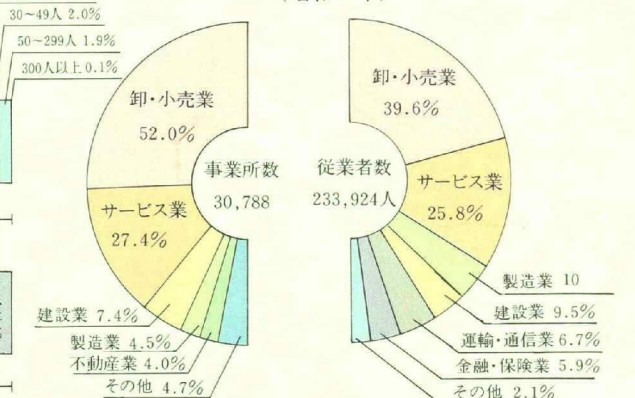
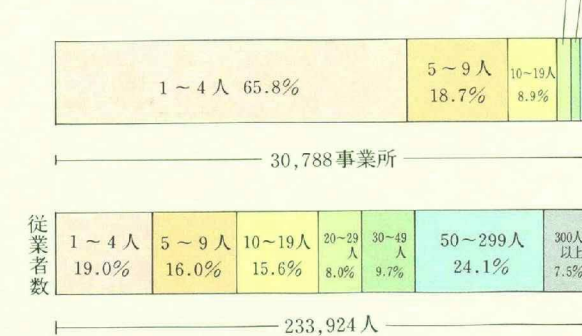
中小企業の経営安定のため、市では13の中小企業金融制度を設けていますが、昭和62年度は融資枠161億円を用意しました。また、中小企業振興助成では、商店街の共同施設や高度化施設建築費



流通業務団地

熊本市の産業構造(民営)
(昭和61年)

従業者規模別事業所数・従業者数(民営)
(昭和61年)



などへの助成、近代化設備の利子補助、融資のあっせんなどを実施しています。

このほか、企業診断や経営指導を行い、中小企業経営のレベルアップを図っていますが、労務対策としては、求人、雇用対策協議会を開催し、若

年技能労働者の確保、職業安定機関との緊密な連絡を保つなどしています。また、職業訓練には、職業訓練大学校など4施設があり、勤労者の福祉施設としての勤労婦人センターなど4施設では30万人以上の市民が利用しています。

商業

Human City くまもと
KUMAMOTO

～魅力ある商店街づくりと流通拠点機能の強化
本市の商業は、地方中核都市としての特性を背景に順調に発展しています。特に下通・上通・新市街一帯で形成している中心商店街は、広く県域全体を商圏としています。
県内での本市商業の占める割合は年間販売額で卸売業65.6%、小売業44.6%です。

1. 魅力ある商店街づくり

商店街は、小売業、サービス業が集積し、市民の生活拠点として、市民の生活文化と深く関わっています。

本市の商店街は、中心商店街と市内数ヵ所の要点にある地区型商店街及び最寄りの買物の場としての、近隣型商店街で成り立っています。

商店街は、これから『買物の場』としてだけでなく、買物以外の多様なニーズに応える『暮らしの広場』へ、また快適で個性ある商店街づくりが求められています。このため、各商店街の個性を生かしながら楽しく歩ける歩道づくり、街路樹の植栽、アーケードの設置などの環境整備を推進します。

2. 流通拠点機能の強化

九州内で有数の卸売業の集積都市として発展してきた熊本市ですが、昨今の流通構造の変革の中で抜本的対策が必要となりました。このため流通

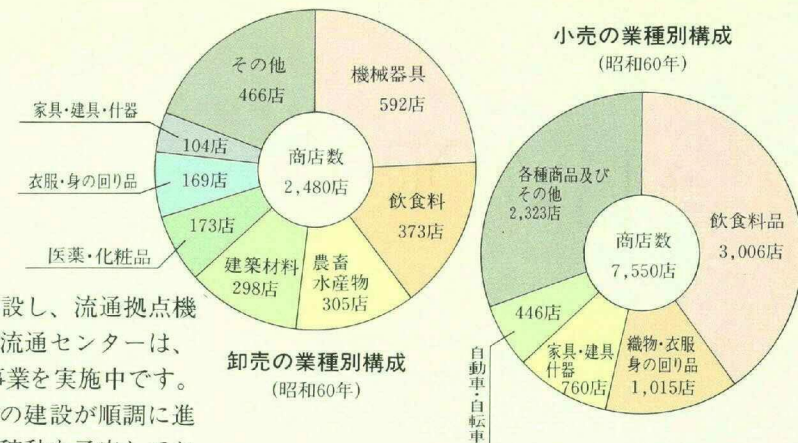
商店数・従業者数・年間商品販売額

(飲食店を除く)

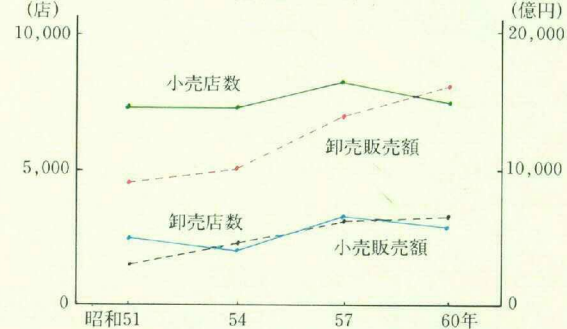
区分 年	商店数	従業者 (人)	年間商品販売額 (億円)	販売額 伸率 (%)
51	9,630	58,285	12,448	47.8
54	9,492	57,503	15,138	21.6
57	10,884	64,797	20,120	32.9
60	10,030	62,853	21,822	8.5



下通りアーケード街



卸・小売の商店数と年間商品販売額
(飲食店を除く)



工業

Human City くまもと
KUMAMOTO

本市の工業は、食品工業を中心に出版・印刷、金属製品、家具、衣服等都市性格の集積と関連の深い、都市型工業が大きなウェイトを占めていますが、その殆どは20人以下の小規模企業です。

しかし、昭和40年代、50年代には、本市及びその周辺にIC工場、自動車工場などの国際的な先端技術産業が立地したため、既存工業への生産的な波及や技術先端化の効果が着実に出てきています。

今後は都市型工業の振興ばかりではなく、ハイテク関連工業の一層の技術集積化をはかるとともに、農畜水産業、流通、飲食サービス業の有機的な結合による、システム産業の展開が可能な食品工業の振興など、地域経済の循環性を飛躍的に高めるために、下記の工業振興施策を推進していきます。

1. 地域環境と調和した生産環境づくり

住工混在で近代化、合理化を阻害されている本市の工業を、工業団地化などして、生産環境の整備を促進します。

2. 技術開発力の高い基盤づくり

研究開発型企業や新鋭機械設備の導入に対する助成、研究者や技術者の派遣研修、産学交流の促進、各種実践的研究会などを実施して、地域の技術基盤を高めます。

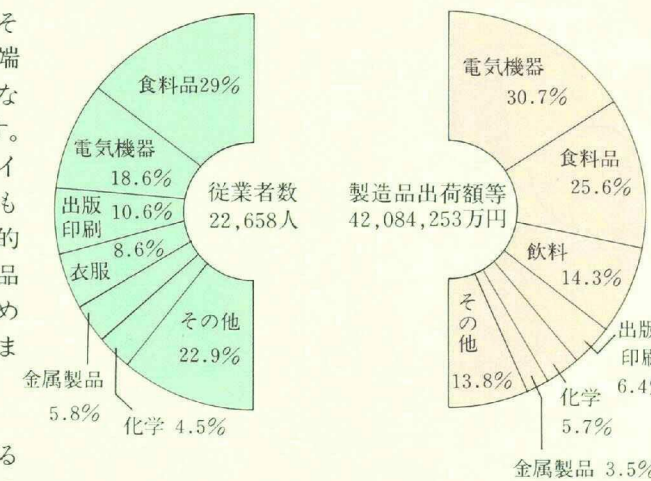
3. 市場開発力強化のための基盤づくり

市場開拓に必要な国内見本市などへの出品助成、中小企業製品フェアなどのイベント開催、市場開発のためのマーケティング研究会などを実施して、市場開発力を強化します。

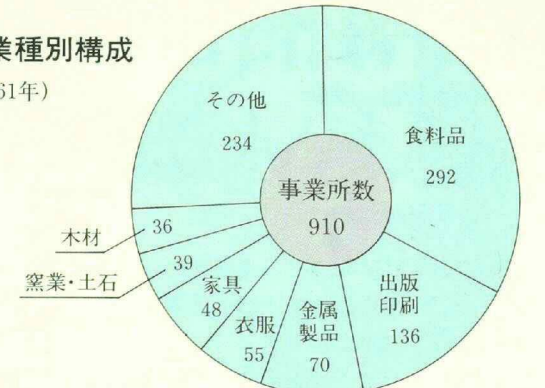
4. 意欲的経営のための人づくり

モデル企業制度、経営者及び管理者を対象にした研究会などを実施して、意欲的経営のための人づくりを推進します。

業種別従業者数と製造品出荷額等
(昭和61年)



製造業の業種別構成
(昭和61年)



事業所数・従業者数・製造品出荷額等
(4人以上の事業所)

区分 年	事業所	従業者 (人)	製造品出荷額 (億円)	出荷額 伸率 (%)
57	942	21,864	3,326	11.1
58	956	22,241	3,577	7.5
59	889	22,789	4,188	17.1
60	912	22,749	4,318	3.1
61	910	22,658	4,208	△ 2.5



O A 物流機器工場

雇用福祉

Human City くもと
KUMAMOTO

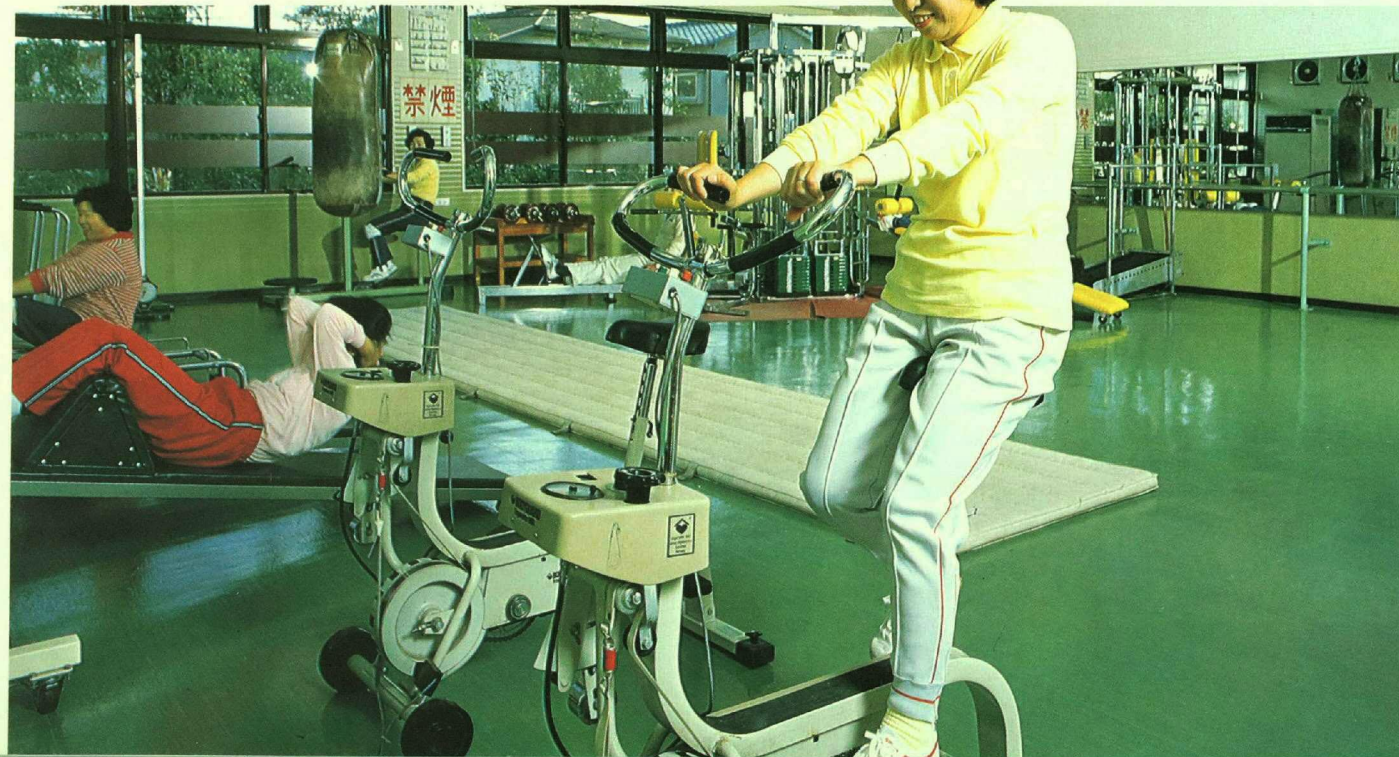
中小企業の振興には、従業員の確保と育成が必要です。また、事業所で働く従業員の福利厚生の充実も、大切なことです。このため、市では雇用安定策を立て、これを推進しています。

市には、熊本市職業訓練センターをはじめ熊本市事業内高等職業訓練校などの訓練機関があり、従業員の研修、広範囲な技能訓練を行うほか、再就職を容易にするための職業訓練やO A機器講座を開設するなど、優秀な技能者の養成を行っています。

また、若年労働力の確保には、雇用対策協議会、産業開発求人对策協議会などの強化や協力を進めており、中高年齢者対策には、高年齢者職業相談室の開設、中高年齢労働者福祉センターでの職業相談、職業情報の提供などを行っています。

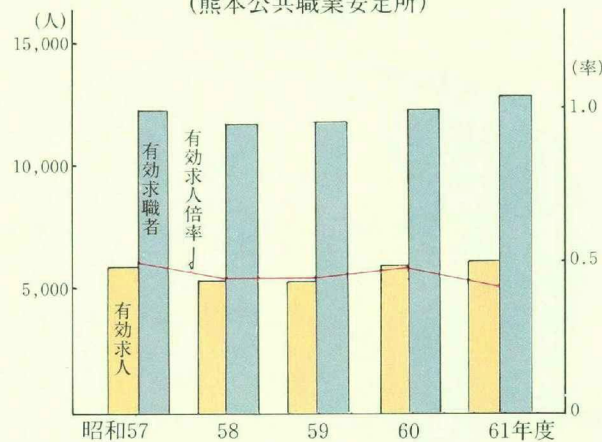
労働力の定着、福祉対策には、中小企業勤労者福祉共済制度があり、加入企業の従業員は、廉価なバス旅行、結婚祝金、傷病見舞金などを受けることができます。施設では、勤労青少年ホーム、勤労婦人センター、勤労総合福祉センター、中高年齢労働者福祉センターがあり、体力の増強、教養の向上、文化の創造などに利用され、明日の仕事の活力を養うために年間30万人以上の勤労者が訪ずれています。

このほか、雇用促進事業団では住宅の建設を、熊本県勤労者信用基金協会では融資の信用保証を行っています。この協会に市は2,500万円を出しています。

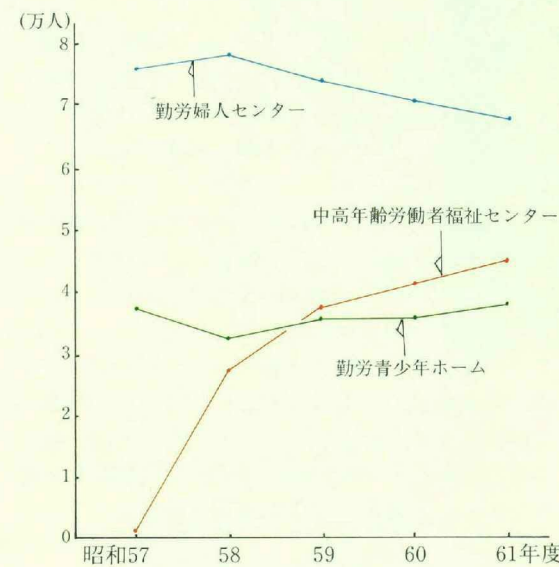


サンライフ熊本(トレーニングルーム)

一般職業紹介の月間推移
(熊本公共職業安定所)



勤労福祉センター利用状況



農林水産業

Human City くもと
KUMAMOTO

都市近郊農・漁業の振興

本市の農林水産業は、北西部の中山間樹園地帯、西南部の水田地帯、東部の畑地帯からなり、野菜、米をはじめ畜産、花き、果樹など豊富な基幹作目を有した農地面積4,100ha、農家戸数4,800戸の農業と有明海沿岸におけるノリ、魚介類の海水面漁業、更にウナギ、観賞魚等内水面漁業の水産業からなっています。

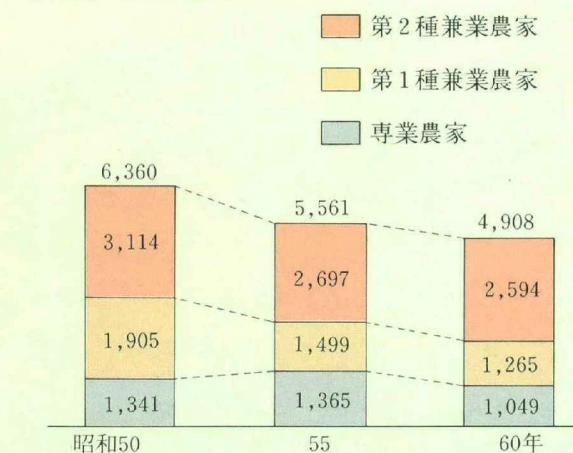
いずれも、立地的優位性、地域性を活かした特色ある経営が行われています。

しかしながら、農業は近年の厳しい諸情勢に加え、都市化の影響を強く受け、農地、農家戸数、基幹労働力の総体的な減少、兼業化、混住化、高齢化の進行など都市近郊農業特有の多くの問題を抱えています。

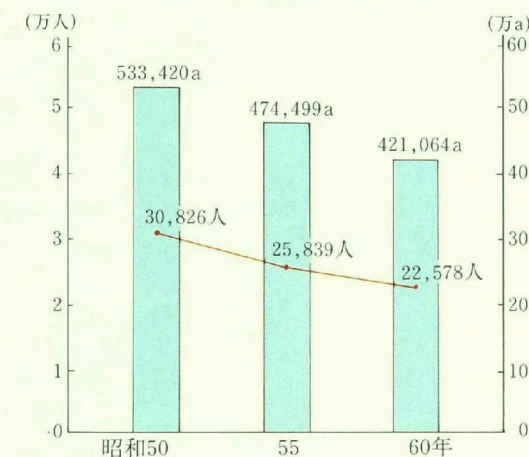
また、水産業は依然気象、海況の影響を大きく受け、加えて就労者の高齢化、設備投資の増大、価格の低迷など厳しい環境におかれています。

市では、これらの情勢に対処して経営の自立安定と国際化社会に対応できる高生産農漁業の実現に向け、各種の事業を積極的に取り組み都市近郊の特性を活かした豊かで活力ある農林水産業の振興を図っています。

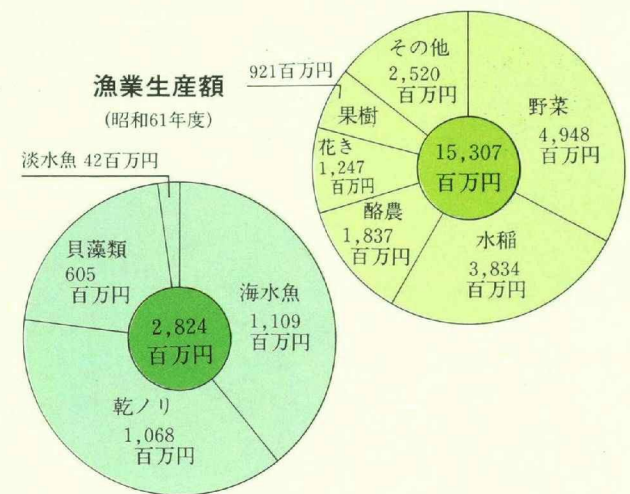
農家戸数の推移



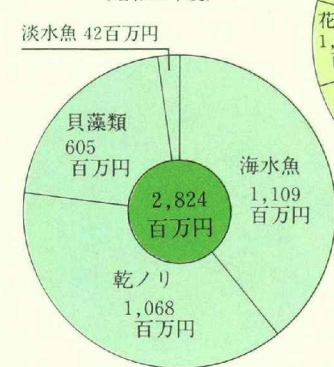
農家人口と経営耕地面積の推移



農業生産額
(昭和61年度)



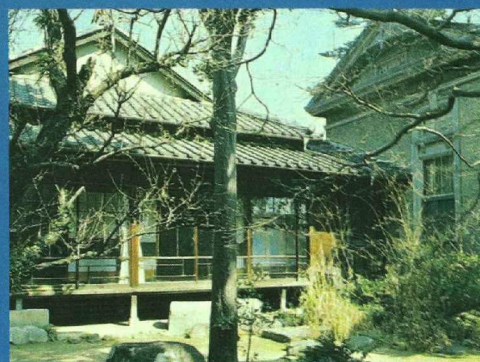
漁業生産額
(昭和61年度)



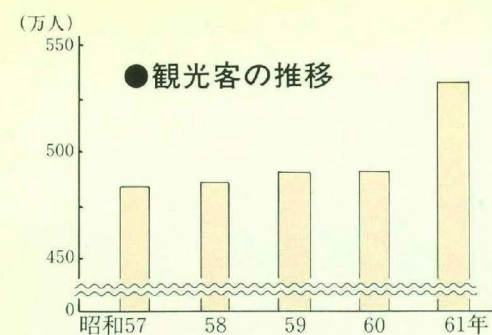
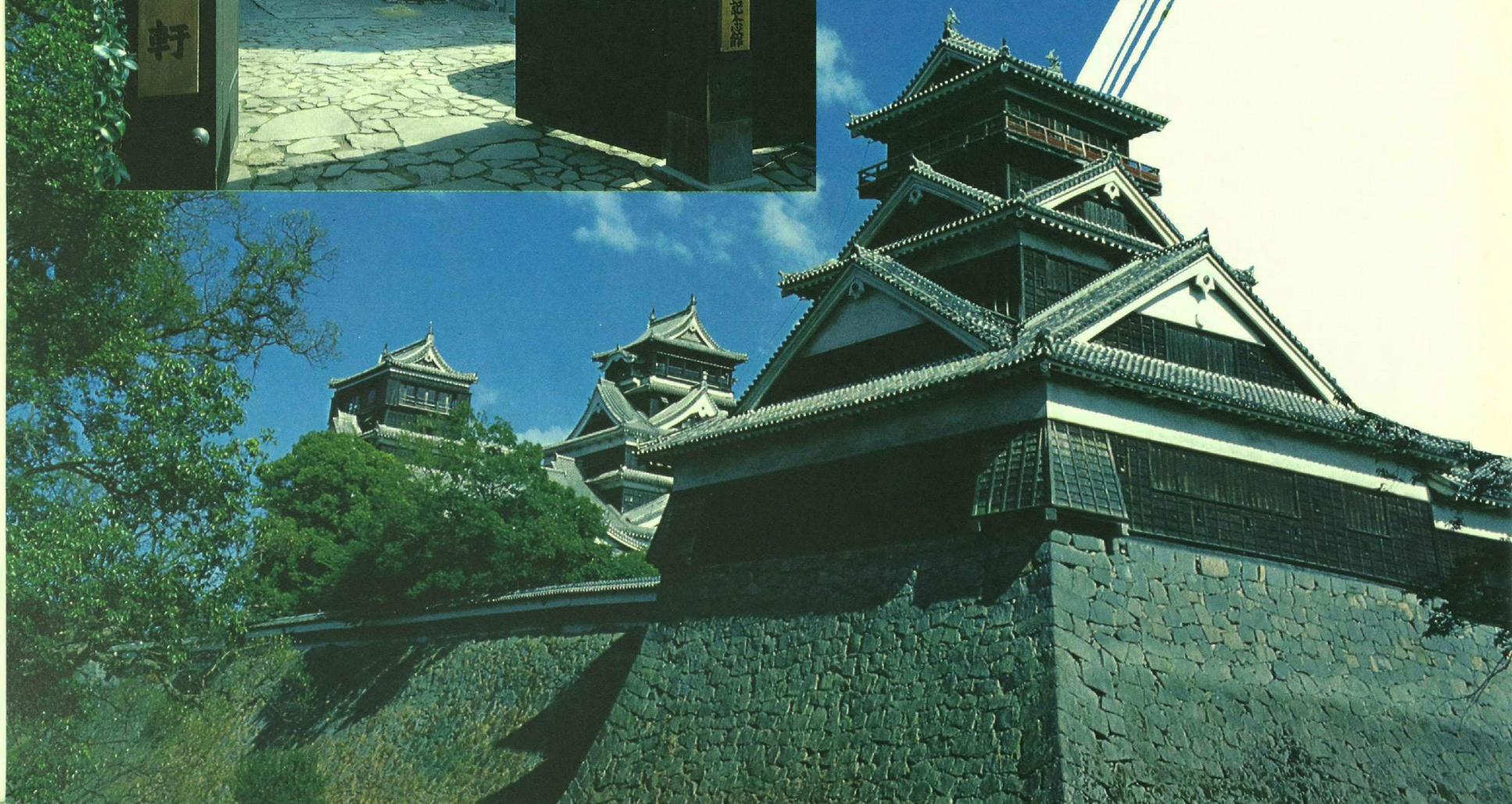
ビニールハウス

観光

Human City くもと
KUMAMOTO



夏目漱石旧居



本市は九州の中央、東に「阿蘇くじゅう」、西に「雲仙天草」の二大国立公園を望む位置にあり、昭和61年3月には「国際観光モデル都市」にも指定され、九州国際観光ルートの中核として、国際色豊かな魅力のある都市に変わりつつあります。

「水と緑と史跡のまち」といわれる「くもと」には、加藤清正築城の日本三名城である「熊本城」をはじめとして、清冽な地下水が湧く天下の名園「水前寺成趣園」、悲劇の生涯で有名な細川ガラシャの眠る「立田自然公園」、そして夏目漱石、小泉八雲、森鷗外、徳富蘇峰・蘆花など明治の文豪の文学遺跡などが、豊かな自然と多くの史跡の中に、文化的観光資源として数多く残されています。

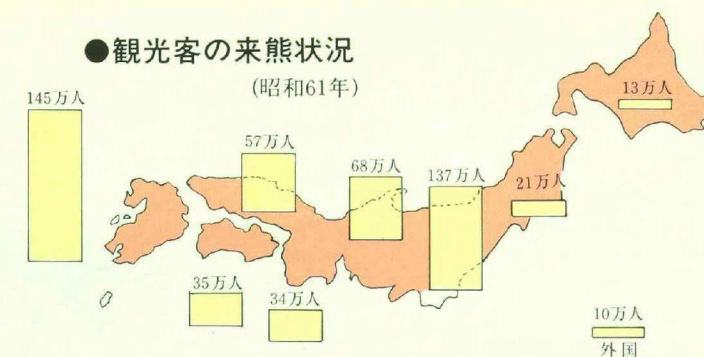
また、剣聖宮本武蔵が兵法五輪の書を著した「霊巖洞（五百羅漢）」や、漱石の小説「草枕」にゆかりのある、西山地区一帯の自然を活かした観光開発も進めています。

このような豊かな観光資源と位置的条件を活かして各種大会、会議、修学旅行生などの誘致促進を図り、観光客の増大に、市は積極的に取り組んでいます。

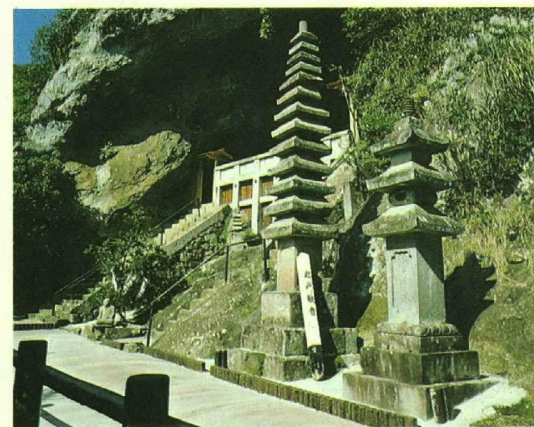
市電の走る城下町風情と近代的街並のなかに歴史の香りがたよう本市には、全国各地や外国から、毎年500万人以上の観光客が訪れています。



徳富旧邸



五百羅漢



霊巖洞



本妙寺

Human City くまもと
KUMAMOTO
観光



古今伝授の間

火の国まつり

夏の風物詩、市民総参加の火の国まつり



ミス熊本とミス肥後六花

熊本の夏を彩る「火の国まつり」は、毎年8月11日～13日の3日間、熊本城、市内目抜通りを中心に盛んに催されます。

郷土に根ざし後世に受け継がれることを願って始められたこのまつりは、今年で10年目を迎えました。

初日は、希望の火リレー、音楽パレード、みこしだワッショイに続いて、開幕行事には桂林市歌舞団の妙味も披露され、まつり気分は一気にひろがり、2日目には、まつりのメインイベント「総おどり」が、年とともに多くなってきた2万2千人の踊り手によって繰りひろげられ、民謡おてもやんのメロディとサンバのリズムに酔うと、まつりは最高潮に達します。

最終日は、まつりのフィナーレを飾る花火大会が、江津湖畔、熊本城で華やかに行われ、夏の夜空に広がる光と音の響宴は見物人を魅了し、3日

間のまつりは幕を閉じます。

まつりの期間中は、各地域でいろいろの協賛行事も行われ、市民や観光客を楽しませますが、この3日間の人出は約90万人となり、今や九州でも有数のおまつりに発展してきています。



総おどり